

# 扶養控除の廃止で子ども手当が帳消し!



税条例改正で  
2400世帯が  
大增税

## 日本共産党は討論の上反対

税条例の改正が行われ、年少扶養控除(0歳から15歳)が廃止、特定扶養控除(16歳、18歳)の上乗せ分が廃止されました。子育て世代は増税となります。小川町で対象となる世帯はおよそ2400世帯。0歳から15歳までの子を持つ家庭は、

子ども一人当たり所得税が3万8千円、住民税が3万3千円、計7万1千円×人数分。16歳から18歳までの子を持つ家庭は、子ども一人当たり所得税2万5千円、住民税1万2千円、計3万7千円×人数分が増税となります。

他の制度にも雪だるま式に影響が

23項目にわたり、他の制度への影響があるといわれています。例えば幼稚園就園奨励費補助金や保育料、特に保育料は所得で7段階に分かれているので、大幅値上げの家庭が出てきます。一方、子ども手当は、来年度の満額支給は断念され、上乗せ分が現金支給となるのか現物支給となるのかも

## 小学校耐震設計委託料が計上

補正予算で、小川小学校耐震設計委託料が計上されました。今年度中に設計が終わり、順調にいけば平成25年度に耐震工事がすべて終了する予定です。

不透明です。しかし、決定事項として来年度は所得税2012年度からは住民税が増税となってしまう。日本共産党は、子育て世代の負担増は公約違反と討論の上、反対しました。

## 育児・介護法改正を受け条例が改正

育児・介護休業法改正の大きなポイントは、妻が働

男性も積極的に育児参加を

平成22年度第2回定例会は、6月22日～7月2日まで開催されました。議案審議は13件。日本共産党は、子どもを持つ世帯の扶養控除の廃止・縮小を含む「小川町税条例の一部改正」について反対しました。一般質問は8人が行いました。

5月に行われた町長選挙で笠原町長が再任されました。

日本共産党は、住民要望実現と町政のチエック機能を果たしていく立場で、これからの4年間の町



柳田議員の質問に  
ひとり親家庭医療と重度障がい児医療の窓口払いも不要と回答

より困難な状況にある子ども達が窓口払い廃止の対象外です。是正をすべきではないですか!

柳田議員

政運営について町長の考えを聞きました。

3月議会でも取り上げましたが、子ども医療費の窓口払いは7月から廃止となりましたが、ひとり親家庭、重度心身障がい児医療費については対象外でした。

今議会でも、「両医療についても中学3年生以下の方は、子ども医療費受給資格証を協定医療機関の窓口

いているかどうかにかかわらず、すべての父親が希望すれば、必要に応じて育児休業をとることができるようになったことです。男性の育児休業取得率はわずか1.23%。男性も積極的に育児にかかわり、子どもの成長を共に見守りましょう。



6月議会にはたくさんの傍聴がありました。「初めて傍聴した。」という方に感想を伺ったら「町のことをもっと知らなければね。傍聴に行くことで、議員さんも執行部も、より緊張感のある議会になるのでは。」とのことでした。次の議会は9月1日開会予定です。ぜひ傍聴においで下さい!

柳田たえこ

提示して頂くことで窓口払いの必要がなくなります。」との回答がありました。



## 自治体間の不公平が是正

障がい者の地域生活支援事業は各町村が行う事業です。同じサービスを受けていても自治体によって非課税世帯の利用者負担が違ふことは不公平ではないかと指摘(町は有料)。町は今議会でも、非課税世帯は原則無料とする方向で、要項を整え実施すると約束しました。

## 不公平ではないですか! →非課税世帯は無料とします

# みんな一緒にいらないよ!

**問** 子宮頸がんワクチン、肺炎球菌ワクチンとヒブワクチン接種の町独自助成を。



**答** 子宮頸がんとともにワクチン接種で8割が防げると言われ、国も優先課題としていますが、いまだ国の定期接種となっておりません。自費では高額で出来ない家庭も、「ワクチンで助かる命を救って」と子育て支援として町独自の助成を求めました。

「髄膜炎」という小さな子ども（生後3カ月〜2歳くらいまでの発症が多い）がかかる病気があります。ヒブと肺炎球菌が引き起こす細菌性髄膜炎は、治療が遅れると知的な障害や、手足のまひなどの後遺症が残ってしまいます。

**問** 庁内検討チームを立ち上げることだったが、現在の検討状況と、さらなる促進は。

旧騎西町の  
デマンドバス



**答**

今年度末までに、町民アンケート調査や既存バス路線、タクシー、福祉有償運送への影響を研究します。「デマンド」にこだわらず高齢者の方の有効な交通手段で、財政効率を高めて地域の活性化につながる方向性を検討していきます。

**問** 病児・病後児保育の実施は住民アンケートの中でも要望が高い。平成26年度までにと言わず前倒しで進めるべき。合わせて休日保育も促進すべきでは。



**答** 病児・病後児保育については出来るだけ早く実施していきたい。休日保育は今後実施箇所、実施時期などについて検討していきます。

## 柳田たえこ議員の一般質問

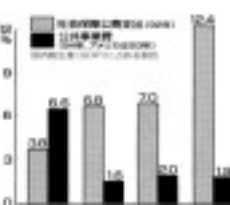


今議会では「子育てを支援、高齢者を障害者の福祉に力をそそぐ」とする町長の公約をどう具体化するのか2項目か8点について質しました。

- ・福祉3医療の窓口払い廃止の状況と町の対応（おもて面参照）
- ・障がい者地域生活支援事業の利用者負担（おもて面参照）
- ・病児・病後児保育、休日保育の具体化
- ・環境基本計画アクションプランの展開は
- ・学校施設を含むこれらの町施設耐震化計画
- ・財政の透明化と説明責任を果たす必要は

参考）  
・ワクチン接種で救える命を救って  
子宮頸がん、肺炎球菌、ヒブワクチンの町独自助成を

**問** 町の財政状況など積極的に住民に公開し、財政の透明化を進め説明責任を果たすことは。



**答**

予算・決算の状況と中間年度の財政状況、バランスシートの公表を広報に掲載しており透明度は図られ町民理解は得られていると考えます。

**問** 町所有施設の耐震化は、耐力度調査で要改築と診断されている西中学校は今後どう考えていくのか。

**答**

役場庁舎は診断が終わわり、部分改修が必要です。早急に町民会館の耐震診断を行います。西中は改築を考え、地元や様々な所と連携を図り良い方向に進めていきます。

**問** 町民グループと担当課と共同で毎年、春・秋に河川観察会が開催されている。エコクラブの子ども達を始め多くの町民が参加している。これから始まる槻川再生事業と共に水辺への住民の関心も高まると思われるが今後の展開は。

**答** 町民主導による計画です。アクションがあれば可能な限り関係機関と調整し支援していきたいと考えます。



どんな水生昆虫が住んでる？河川観察会の様子